

表1－98 現在取り組んでいる主な研究課題

研 究 課 題		実施試験場等
家畜排せつ物等の良質堆肥化及び利用に関する技術の開発	・家畜ふん堆肥，化学肥料を組み合わせた成分調整型肥料の開発と施肥技術の確立	関係試験場
	・敷料としての堆肥の利用体系の確立	畜産試験場
化学肥料・農薬の使用量を削減する栽培技術の開発	・施設下における軟弱野菜の環境負荷低減技術の開発	農業試験場
	・弱毒ウイルスを利用したピーマン土壌伝染性ウイルスの防除技術の確立	農業試験場
	・性フェロモン利用による害虫類の環境保全型防除技術の確立	農業試験場
	・南九州畑作地帯における環境負荷物質の制御技術の開発	農業試験場本場，大隅支場，大島支場
	・カンキツの環境負荷軽減施肥・防除技術の開発	果樹試験場
	・多様な品種特性に適応した環境保全型栽培技術の確立	茶業試験場
	・環境保全型病害虫管理技術の開発	蚕業試験場
新素材フィルムマルチの利用技術の開発	・露地野菜におけるべたがけ栽培新作型開発と生分解性マルチ利用機械化技術の確立	農業試験場大隅支場

第 7 節 水産業における環境対策

1 漁場保全対策

(1) 漁業公害調査指導事業

漁場環境の監視及び漁業公害に関する情報収集並びに被害の防除措置に関する指導等を行うことにより，沿岸及び内水面漁場の保全を図っています。

① 漁場監視調査

沿岸漁場の公害等による汚染の状況及び漁業被害の状況等について，調査指導員（水産業改良普及員）を中心に情報の収集を行っています。

② 生物モニタリング調査

調査指導員による藻場調査，ベントス（底生生物）調査（各 4 地点，年 2 回）を行っています。

藻場調査地点：笠沙，福山，志布志，笠利

ベントス調査地点：出水，川内，喜入，笠利

③ 現地調査指導

県下19地点（海面18地点，内水面 1 地点）にて，水質（水温，比重，ph，溶存酸素量）の調査を行っています。

④ 特定水域水質調査

笠沙町片浦湾内 4 調査点において，月 1 回海洋環境調査を実施し，水質の監視及びデータの継続的蓄積を図っています。

(2) 渚クリーンアップ事業

県下の主な海亀産卵場周辺の海浜及び海面の清掃活動等を行うことにより，海亀の生息環境の保全を図っています。

(3) 桜島軽石等除去事業

桜島の長期にわたる火山活動により生成・堆積した軽石が、大雨等により周辺海域に流失し、漁船の航行障害や漁具の破損、魚類養殖における給餌作業などに影響を与えているため、その回収・除去作業を行い漁場環境の保全を図っています。

(4) 漁場環境保全創造事業

サンゴ群落は、有用魚介類の産卵・育成の場として重要ですが、近年、オニヒトデが異常繁殖し、サンゴが食害を受けた結果、漁場環境が悪化し、漁業への影響が懸念されています。このため、オニヒトデの除去を行い、サンゴ群落を保護することで、漁場環境の保全を図っています。

平成15年度実績

瀬戸内地区 オニヒトデ除去 574,710㎡

(5) 赤潮対策調査

赤潮の発生する恐れのある時期に海域の環境調査や赤潮発生の予察を行うとともに、赤潮発生時の情報伝達や指導等により、漁業被害の未然防止に努めています。

平成15年度は、別表のとおり11件の赤潮が発生し、鹿児島湾と八代海南部において養殖ブリ・カンパチを中心に約1億4千7百万円の被害を受けました。

(表1-99, 表1-100)

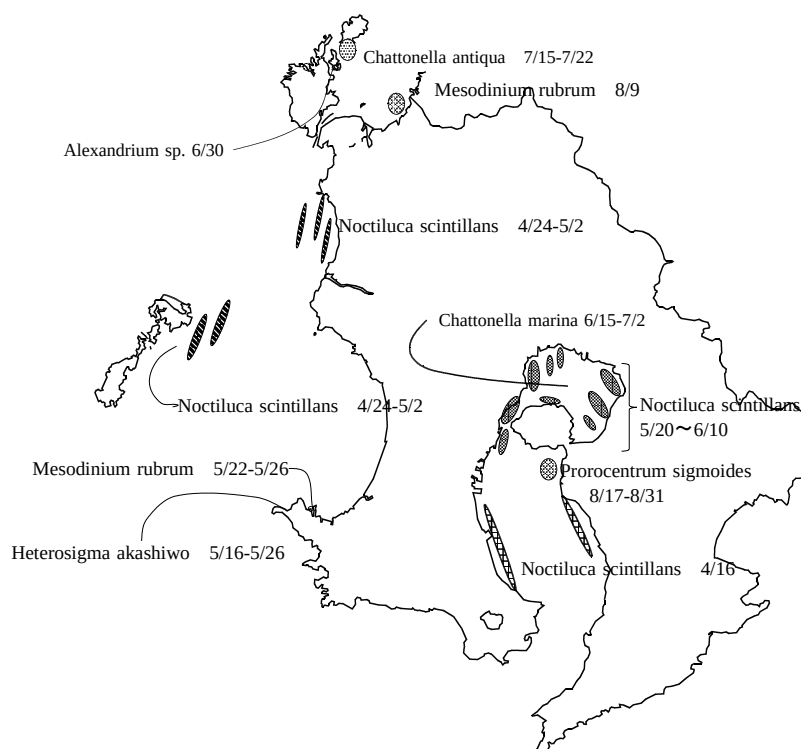
表1-99 鹿児島湾及びその他海域における赤潮発生状況（平成15年度）

No.	発生期間	発生海域	赤潮構成プランクトン種名	細胞密度 (cells/ml)	最大面積 (km)	漁業被害の有無
1	4/16	鹿児島湾中央	ノクチルカ シンチランス	不明	不明	なし
2	4/24-5/2	東シナ海域甌島周辺	〃	不明	不明	なし
3	4/24-5/2	東シナ海域阿久根沖	〃	不明	不明	なし
4	5/16-5/26	笠沙町野間池漁港内	ヘテロシグマ アカシオ	11,350	0.5×0.5	なし
5	5/22-5/26	笠沙町片浦漁港内	メソディニウム ルブラム	3,800	20.0×5.0	なし
6	5/20-6/10	鹿児島湾中央以北	ノクチルカ シンチランス	56	1.0×1.0	なし
7	6/15-7/2	鹿児島湾全域	シャトネラ マリーナ	64,000	4.0×10.0	有り
8	8/17-8/31	鹿児島湾中央	プロロセントラム シグモイデス	18,000	1.0×1.0	なし

表1-100 八代海域における赤潮発生状況（平成15年度）

No.	発生期間	発生海域	赤潮構成プランクトン種名	細胞密度 (cells/ml)	最大面積 (km)	漁業被害の有無
1	6/30	東町諸浦	アレキサンドリウム エスピー	28,000	0.5×0.5	なし
2	7/15-7/22	東町沿岸	シャトネラ アンティーカー	14,000	1.0×1.0	有り
3	8/9	出水市沖	メソディニウム ルブラム	8,000	5.0×5.0	なし

図 1－43 鹿児島県海域における赤潮発生状況（平成15年度）



(6) 適正養殖指導

魚類養殖業は、限られた漁場において集約的に営まれるため、水質や底質など漁場環境の保全に万全を期すことが必要です。

県では、昭和53年に定めた魚類養殖指導指針により、漁協等に対し漁場ごとに水質・底質の調査を行い、その結果を報告することを義務づけています。また、毎年、県内各漁場ごとの生簀台数や養殖魚種、放養量等を把握したうえで適正養殖の指導を行うとともに、持続的に魚類養殖を行うため、持続的養殖生産確保法に基づき魚類養殖場を有する全ての漁協の漁場改善計画を認定しました。この計画に基づき、環境への負荷への少ない餌料への転換などについても指導を行っています。

(7) 魚類へい死事故原因調査

県内の河川及び河口域で魚類のへい死事故等が発生した場合、市町村等からの依頼に応じて水産技術開発センターで原因の究明に努めています。

平成15年度のへい死事故の発生件数は5件で、全て原因は特定されませんでした。

（表 1－101）

表 1－101 平成15年度魚類へい死事故分析実績

No.	発生日月	状 況	原 因
1	H15. 4. 11	郡山町油須木地区河川でのオイカワ等のへい死	原因不明
2	H15. 6. 16	国分市検校川でのウナギのへい死	原因不明（有機リン系薬剤の疑い）
3	H15. 6. 16	西之表市上石寺川でのエビのへい死	原因不明
4	H15. 11. 21	川内市春田川のコイ異常へい死	原因不明
5	H16. 2. 下旬	十島村リーフ内におけるカニ等の異常へい死	原因不明